

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組

## 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～和歌山県～

- 生徒の英語力…国が求める英語力を有する生徒の割合は増加傾向にあるもののいまだ十分ではない。
- 教員の英語力…国が求める英語力を有する教員の割合も十分ではない。

- 教員の英語指導力・英語力を向上させるための研修を充実し、指導方法の工夫・改善に取り組むことにより、語学力やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材を育成する。
- 英語ディベート大会や英語クイズ大会を実施するとともに、言語活動を重視した授業を充実させる。

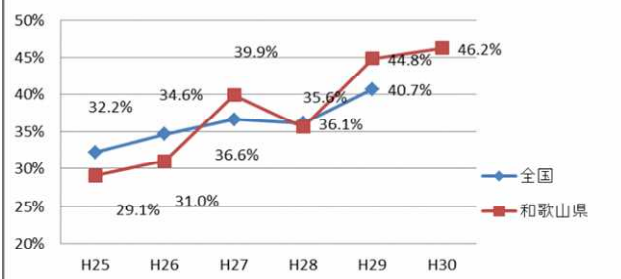
### 【生徒の英語力向上の取組】

- ・4技能5領域をバランスよく育成するための授業改善
- ・英検の公費受験の実施(中学3年生対象)
- ・英検IBAの実施(中学1.2年生対象)

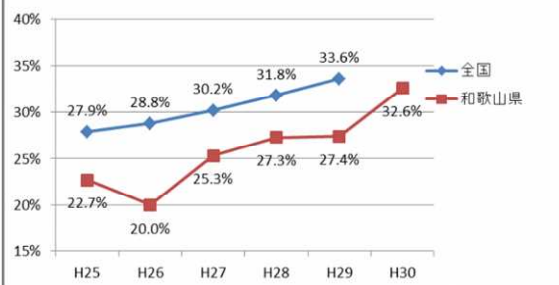
### 【教員の英語力向上の取組】

- ・英語教育推進リーダーによる研修の実施(小・中・高教員対象)
- ・語学力アップ研修の実施(中・高教員対象)
- ・TOEIC IPテストの実施(中・高教員対象)
- ・教員採用検査における英語の技能検定の成績等による優秀な教員の確保

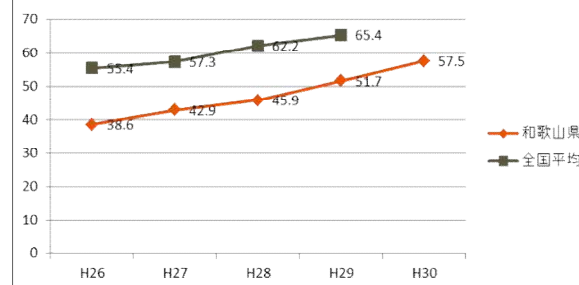
中学生の英語力の状況



中学校教員の英語力の状況



高等学校教員の英語力の状況



### 【成果】

- ・生徒の授業における英語による言語活動の時間の割合の向上 中(H25 41.5%→H30 73.0%) 高(H25 30.5%→H30 65.5%)
- ・CAN-DOリスト設定状況の向上(H25 15%→H30 100%) 高(H25 39.7%→H30 100%)
- ・パフォーマンス評価の実施状況の向上  
スピーキングテスト実施回数 中(H27 2.2回→H30 3.0回) 高(H27 2.1回 → H30 14.8回)  
ライティングテスト実施回数 中(H27 1.6回→H30 3.3回) 高(H27 0.9回 → H30 7.9回)

### 【成果・好事例の周知の取組】

- ・研修協力校を中心とした外部専門機関と連携した英語指導力研修の実施(公開授業及び研究協議・大学教授による講義)
- ・高等学校英語授業改善研究協議会の実施

### 【課題解決のための手立て】

- ・授業における英語使用状況の向上のため、学校訪問や研修等で学習指導要領の趣旨説明の徹底を図るとともに、指導方法等を示す。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～御坊市立野口小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・担当教員の指導力向上を図るための取組
- ・児童に英語をできるだけ多く使わせるための効果的な言語活動の研究と工夫

## 具体の取組の内容

- ・学年担任が毎時の指導案を作成する。→担任主導の授業づくり
- ・授業での共通理解→目標・学習の流れの提示と授業後のふり返り  
クラスルームイングリッシュの積極的使用
- ・外国語活動授業支援員(市教委雇用)による授業参観と授業後のアドバイス指導
- ・担当教員同士での教材の共有(教材作成の効率化)
- ・外国語活動研究推進委員会の定期的開催→担当教員の情報交換や共有、目標設定など
- ・推進教員による現職教育での外国語活動の活動紹介→全教員の意識向上への取組
- ・学習環境の整備(既習の表現などの掲示物を校内に掲示)→定着化への補助

### 成果①

- 児童アンケート結果より(3～6年) 2学期
  - ・授業が「好き」の回答は約70%で、「どちらかといえば好き」と合わせるとほぼ100%であった。また、「楽しい」の回答も約83%で、授業に対する意欲的な様子がうかがえた。
  - ・内容が「わかる」の回答は約70%で、「どちらかといえばわかる」と合わせると約90%であり、内容についてほぼ理解ができています。
  - ・楽しい理由の一番は「英語を使ったゲームやクイズ」であるが、「英語の言葉や外国の文化を知ることができること」や「友達とのやりとり」が楽しいとの回答も次に多かった。
  - ・「5年生時より英語力がついてきていると思うか」(6年生)の質問に「とても思う」の回答は56%で、「思わない」の回答は0%であった。

### 成果②

- 児童について
  - ・外国語活動の授業や英語使用に抵抗なく取り組む児童が多くなってきている。
  - ・英語使用量が増加してきている。
  - ・授業中積極的に聞いたり使ったりする児童が多い。
- 教師について
  - ・担任主導で授業に取り組んでいる。
  - ・外国語活動授業に対する意識・意欲の向上が徐々にみられてきた。
  - ・教材の工夫と作成に積極的な努力がみられてきた。

### 今後の課題・方向性

- 指導内容・方法の検証と改善
  - ・成果と課題についての共有
  - ・ゲーム中心から言語活動を意識した授業づくりに向けての研究(質の向上)
  - ・「話すこと」(やりとり・発表)の向上に向けて効果的な指導方法の研究
  - ・書く活動をどのように積み上げていくか。
- 教師の指導力向上への研修の充実
- 評価についての研究  
(評価補助簿の効果的活用法等)
- 全教員の外国語活動指導についての理解の共有を一層図る。
- 中学校区での連携の一層の強化
- 外国語活動授業に対する児童の実態調査の継続

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～御坊市立塩屋小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ◎英語にふれる経験の少ない児童への興味・関心の喚起、意欲的に学習に取り組む授業づくり・環境づくり
- ◎教員の指導力向上をはかるための授業改善

## 具体の取組の内容

- ・英語ルームの設置（ICT機器、掲示物等を駆使した英語を学ぶための雰囲気づくり）
- ・ALTとの連携強化（ネイティブの発音をインプットする機会を増やすための綿密な打ち合わせ）
- ・教材開発（自分の意思を伝えることができ、達成感を味わえるアクティビティの創造）
- ・授業の振り返り（外部派遣の指導員との授業後の検討会）
- ・他校との連携・協力（指導案検討、研究授業・研究協議、教材の共有化）
- ・クラスルームイングリッシュの積極的使用

### 成果①

- 【中学年】  
「英語を使ってみたいと思う」と答えた児童の割合  
〈取組前〉 21%  
〈現在〉 92%
- 【高学年】  
「英語が分かる」と答えた児童の割合  
〈取組前〉 52%  
〈現在〉 100%

### 成果②

- 【児童の様子】
- ・外国語活動の時間を楽しみに待つ児童の増加
  - ・授業で習った英語を積極的に使用する児童の増加
- 【教員の様子】
- ・連携協力しながらの教材・教具の開発
  - ・教員同士による教材研究会の増加

### 今後の課題・方向性

- 高みを目指した指導力向上の取組
  - ・教職員全体への意識改革
  - ・外部講師を招聘した研修会の開催
  - ・先進校視察
  - ・学校間の連携、情報共有
- 評価に関する研究
- ALTが入る授業時間の確保

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～御坊市立河南中学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・文字と音との関係を意識させる取組
- ・英語の積極的活用に向けた取組

## 具体の取組の内容

- ・発音に係る指導方法の工夫  
(アルファベット、単語を見ながらフォニックス読みの効果的な実践)
- ・話すこと(やりとり)の力を伸ばす実践  
(1 minute chat、small talk を取り入れた即興で伝え合う活動の実践)  
(パフォーマンステストの充実)
- ・研修等の取組  
(市内の小・中学校合同研修への参加、研究授業の実施)

### 成果①

#### 《生徒について》

- ・英語の授業に楽しさややりがいを感じる生徒が増えつつある。
- ・small talk を行うことにより、既習内容を活用した即興のやり取りが成立しつつある。

#### 《教師について》

話すこと(やりとり)を中心としたコミュニケーション能力向上に向けた指導方法の工夫改善に努めている。

### 成果②

#### 《1年生IBA平均スコアの推移(600点満点)》

平成28年度	395点
	↓
平成29年度	444点
	↓
平成30年度	452点

### 今後の課題・方向性

- ・上記具体的取組の充実、発展
- ・生徒が自らの考えを即興で自由に表現できる指導の更なる充実
- ・書く活動の指導方法の充実
- ・小中の円滑な連結、連携の強化

# 平成25～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～和歌山県立那賀高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

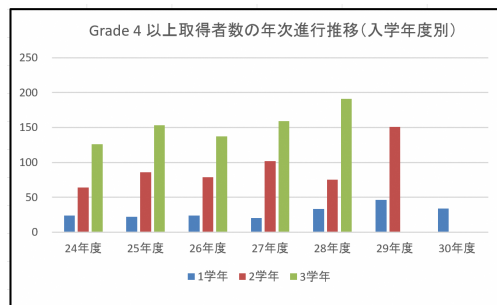
- ・生徒のOutput活動機会、4技能全体の指導バランスの確立(課題)
- ・ICTの活用、教員間のリソース共有、4技能をバランス良く伸ばすための指導法の確立とその継承(手立て)

## 具体の取組の内容

- スピーキングテストの実施  
1学年:年間3回、2学年:年間1回
- エッセイライティングの実施(課題・考査)  
毎回の定期考査(英語表現)の中にエッセイライティング(1割程度)を導入している。  
エッセイライティング講座をFLTの協力のもと英語科教員で全クラスに実施した後、ライティング課題の提出、全英文の添削、リライト提出を行っている。
- 共通素材集でOutput活動の活性化  
英語科教員の共通PCフォルダ内に、「Warm Up素材集」を作成し、教員間で素材を共有している。

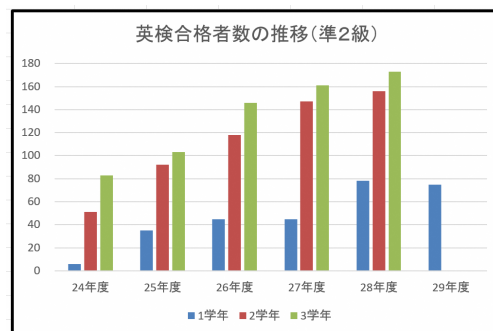
### 成果①

- <GTECスコア>平成28年度入学生
- ◆ 3年次スコア学年平均が過去最高(451点)
  - ◆ Grade 4以上取得者数が過去最高(191名=59.7%)



### 成果②

- <英検合格者数>28年度入学生
- 卒業年度における英検準2級取得者数54.1%が過去最高(320名中173名)



### 今後の課題・方向性

- ライティング指導、スピーキング指導の活性化(発話機会の確保)、他の指導とのバランス
- 1. 英語科教員、FLTのライティング課題の添削指導時間の確保
- 2. 定期考査に含まれるライティングの採点、スピーキングテストの準備、実施、検証などの業務の増加と他の指導とのバランス確保
- 3. 授業での発話機会とパフォーマンステストの一貫性、学年を超えた継続性の確立
- 4技能型外部試験(GTEC)導入による課題
- 1. 外部検定試験受験費用予算の増加
- 2. 外部検定試験の運營業務の増加

# 平成28～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～和歌山県立日高高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・授業の重点が、テキストを「読み、理解する」ことに置かれがちである。
- ・読んだ内容について「書き」「話し」、パートナーの考えを「聞く」機会を設ける。

## 具体の取組の内容

(平成28～29年度) 1～2学年

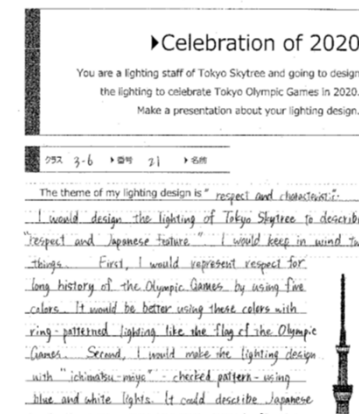
授業がテキストの内容理解だけにとどまらないよう、理解した後、内容を自分の言葉でリテリングさせたり、図示させたりして、ペアやグループで発表させる。

(平成30年度) 3学年

テキスト理解の後、その内容を受けて、「自分ならどうするか」を考えさせ、発表させたり書かせたりする。

(発表は ペア→グループ→全体)

ペアの聞き手には必ずコメントや質問を返させ、グループで発表した後で一番よかったものを選出させ、全体発表の代表者とする。



## 成果①

①外部試験結果より (GTEC)

《平成29年度2学年12月》

「読む」「聞く」「話す」すべての技能において前年度生を上回る。特にスコア710ポイントを上回るグレード7以上の生徒が1人→3人に増加。

《平成30年度3学年6月》

希望者のみの受験なので比較は難しいが高3の全国平均を約100点上回った。

②意識調査

(平成30年度3学年) 大学受験の影響が現れたが、進学後を見据えて英語学習をとらえている回答も散見された。

## 成果②

平成30年度3学年の生徒は、入学時から英語を使った活動に積極的に取り組む雰囲気のある生徒たちであったが、中には書いたり話したりすることに自信を持っていない生徒もいた。しかし学年が進み、英文を書いたり発表したりするための語彙・表現・発音などの基礎的スキルが身につく、同時にお互いを認め合う雰囲気が醸成されると、徐々に自分の考えを書くこと、発表することに抵抗が少なくなった。

また英語が得意な生徒たちは、限られた時間の中で100語以上のまとまりのある英文を書くことに徐々に慣れ、正確さも向上してきている。

## 今後の課題・方向性

- ・4技能のバランスのとれた伸長を目指すには、体系的な指導体制が重要である。現在、1・2学年では、パフォーマンステストと関連づけて「聞くこと」「話すこと」に特化した授業を集中して展開しており、ある程度は生徒への意識づけができてきている。ここで培った意識を通常の授業でどのように維持し、伸ばすかがこれからの課題である。
- ・「話す」力を評価する大学入試改革は、教員にとって大きな関心事である。実際に通常の授業の中で「話す」力を育成するには、少人数編成での授業が不可欠である。
- ・4技能をバランスよく伸ばすことへの生徒の動機付けの必要を感じる。これについてはSGHの取り組みと大きく影響しあう部分なので、その強みを生かしていく。

# 平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 和歌山県立桐蔭高等学校

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・ センター試験をはじめ、入試長文の総語数の増加に対応する速読力の強化が課題であり、WPMを活用した速読活動を行っている。
- ・ スピーキング能力の育成が課題であり、One-minute speechの取り組みを行っている。

## 具体の取組の内容

- ・ 3年生では教科書の全レッスンを速読させ、2年生では難易度に応じて、一部、速読させる。そのレッスンでは、予習を課さず初見で時間を計りながら速読させる。その後、その内容を問う問題を解き、WPMと正答率を記録させる。生徒は速く正確に内容を読み取るよう意識して速読することになる。
- ・ スピーキング指導については1年次に1分間スピーチを毎時間2名ずつ前で発表させた。自分の名前の由来を説明したり、show and tellなど行った。今年度はペアでイラストの描写や意見陳述などを中心に行っている。授業中、積極的に英語で発話した生徒にはwell doneカードを与え、成績評価に加味している。スピーキングテストは年2回行い、教科書で学んだ内容について4人1組で討論させる形態で行っている。
- ・ 授業改善目標に向けた取り組みを3学年のうち1つの学年が担当し、その成果と課題について年度末に実践結果の報告を行い、教科内で共有している。
- ・ 研究授業は英語科教員全員が行っている。

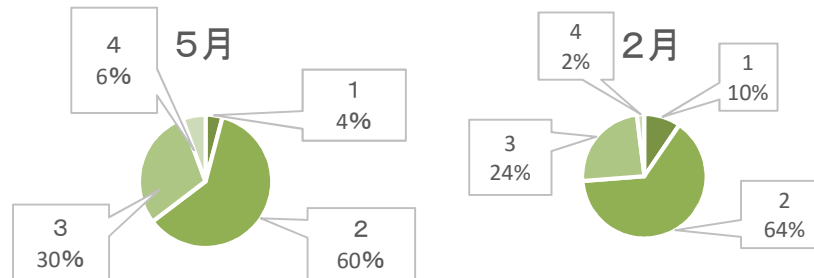
### 成果①

- ・ WPMの測定は生徒の速読に対する意識を高めることになり、WPMの向上が見られた。
- ・ スピーキング活動を行っていくうちに、話すことに対してストレスがなくなり、日常的な会話についてはスムーズに話せるようになったと考える生徒の割合が増加した。一方、難しい話題についてはなかなか英語で表現できないと考える生徒が多く見られた。

### 成果②

意識調査(平成29年度1年生、5月、2月実施)の実施

Q:日常生活に関することや関心のあることについて、英語で簡単な質問をしたり、質問に答えたりすることができる。(1-かなりできる、2-少しできる、3-あまりできない、4-ほとんどできない)



「かなりできる」が10%、「少しできる」が64%に上昇し、合わせて7割以上の生徒ができると感じている。

### 今後の課題・方向性

- ・ スピーキングの指導に関して、多くの課題が残されており、段階的なスピーキング指導の方策を模索している。今後はスピーキング能力の向上を生徒自身が明確に感じられるレベルにしていきたい。
- ・ 速読指導に関しては、センター試験対策として3年生で行った実践を1年、2年にも活用したところ、WPMに成果が現れてきている。毎年、学年で取り組みを行い、研究協議する中で、改善策について共通認識を持つことは有意義であると考えている。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～和歌山県立新宮高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・近年本校入学生徒の英語における低学力化が著しい。そのため英語の基礎学力定着の徹底と興味関心を高めることが必要不可欠であり、授業における工夫改善を行っていく。

## 具体の取組の内容

- ・語彙力強化のための全学年毎週単語テスト実施及び目標に達しなかった生徒への指導の徹底
- ・プロジェクター等のICT機器の活用頻度の増加
- ・授業における教師の英語使用の徹底及び英語活用時間の向上
- ・英語表現の授業における毎回の1分間スピーチの実施
- ・英文法の強化を図るため週末課題による基礎力・応用力の養成
- ・3年生朝のリスニング補習の実施(隔週)

### 成果①

- ・継続的な単語指導により語彙力が増加、読み書き能力が向上
- ・1学年のスタディサポート(ベネッセ)における学カスコアが第1回のC1から第2回B2と2ランクアップし、昨年度同回と比較するとA3以上が27名から39名と12名増加

### 成果②

- ・授業における英語活用時間が約7割となり、生徒も次第に言語活動主体の授業に慣れてきた
- ・言いたいことを英語で表現しようとする態度が生徒の中で醸成されてきた
- ・書く力においても、自分の考えを100～150語程度で書けるようになった

### 今後の課題・方向性

- ・基礎学力は定着傾向にあるが、書いたり話したりにする際の表現力の正確さに欠ける
- ・4技能をより正確に、より機能的に運用できる能力を身につけられる指導方法を今後も模索し学校全体で共有していく必要がある